

第4章 都市構造・都市基盤

～拠点都市として持続可能なまちをつくる～

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	都市計画施策推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部都市計画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路圏都市計画(釧路市、釧路町)都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 第2次釧路市都市計画マスタープラン 釧路市立地適正化計画 釧路市都市計画道路の見直し方針
目的と概要	人口増減、モータリゼーションの進展、産業構造の転換、地球環境問題の高まり、厳しい財政的制約など、都市をめぐる社会経済状況に対応するため、都市内の限られた土地資源を有効に配分し、建築敷地、基盤施設用地、緑地自然環境を適切に配置するなど、都市計画の決定(変更)に関する調査および手続きを推進する。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
財源	事業費 総額 (千円)	4,505	2,937	3,477
	一般財源 (千円)	4,505	2,937	3,477
	国庫支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	18,470	19,050	19,278
①	職員数 (人)	2.5	2.5	2.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		19.6	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
1. 都市計画決定(変更)・・・土地利用 ・愛国地区地区計画 2. 都市計画決定(変更)・・・都市施設 ①道路 ・釧路大橋通(起点の変更) ・鳥取公園通(終点の変更、構造の変更) ・昭園通(区域の変更、構造の変更) ・北園通(路線の廃止) ・富士見緑ヶ岡通(区域の変更) ・雄鉄線通(区域の変更、構造の変更) ・釧路環状通(錯誤の解消) ②公園 ・治水公園(区域の変更)	1. 都市計画決定(変更)・・・土地利用 ・愛国地区地区計画 令和7年11月17日 釧路市都市計画審議会(予備審査) 令和8年 1月30日 釧路市都市計画審議会(本審査) 令和8年 3月24日 釧路市告示第94号 2. 都市計画決定(変更)・・・都市施設 ①道路 ・釧路大橋通、鳥取公園通、昭園通、北園通、富士見緑ヶ岡通 令和7年5月 8日 釧路市都市計画審議会(本審査) 令和7年6月13日 釧路市告示第222号 ・雄鉄線通、釧路環状通 令和7年5月 8日 釧路市都市計画審議会(本審査) 令和7年6月13日 釧路市告示第221号 令和7年6月13日 北海道告示第301号 ②公園 ・治水公園 令和7年11月17日 釧路市都市計画審議会(本審査) 令和7年12月19日 釧路市告示第390号 3. 釧路圏の広域的な都市計画 ①北海道及び釧路町との広域的な都市計画の調整 令和7年5月28日 釧路圏広域都市計画協議会総会 4. その他 ①釧路市都市計画審議会 3回 令和7年 5月 8日 本審査、報告事項1件 令和7年11月17日 本審査、予備審査 令和8年 1月30日 本審査、報告事項1件

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・都市環境や社会情勢の変化に対応した持続可能なまちづくりを推進するため、継続的に検討を図る必要がある。 ・「釧路都心部まちづくり計画」を推進するため、必要となる都市計画決定(変更)に係る課題を整理する必要がある。			課題	・都市環境や社会情勢の変化に対応した持続可能なまちづくりを推進するため、継続的に検討を図る必要がある。 ・「釧路都心部まちづくり計画」を推進するため、必要となる都市計画決定(変更)に係る課題を整理する必要がある。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・「釧路圏都市計画(釧路市、釧路町)都市計画区域の整備、開発及び保全」などに基づき、土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業の検討を行い、必要に応じて都市計画を定める。 ・「釧路都心部まちづくり計画」の進捗に伴い、必要となる都市計画決定(変更)に係る検討および関係機関協議を進める。			今後(令和9年度以降)の方向性	・「釧路圏都市計画(釧路市、釧路町)都市計画区域の整備、開発及び保全」などに基づき、土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業の検討を行い、必要に応じて都市計画を定める。 ・「釧路都心部まちづくり計画」の進捗に伴い、必要となる都市計画決定(変更)に係る検討および関係機関協議を進める。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	立地適正化計画推進補助金＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部都市計画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市立地適正化計画
目的と概要	立地適正化計画の推進のため、立地適正化推進補助金を運用し、コンパクトなまちづくりの具現化を図る。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費	総額 (千円)	5,000	5,000	5,000
財源	一般財源 (千円)	5,000	5,000	5,000
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	4,433	4,572	4,627
①	職員数 (人)	0.6	0.6	0.6
参考	市民一人あたりの費用 (円)		33.3	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画

■釧路市立地適正化推進補助金制度の経過

2017(H29)年 3月	釧路市立地適正化計画を策定
2017(H29)年 10月	釧路市立地適正化推進補助金交付要綱を策定 (補助金制度の創出)
2019(H31)年 3月	釧路市立地適正化計画を改定 (居住誘導区域の追加)
2020(R2)年 3月	誘導施設 2件に対し補助金交付決定

①立地適正化推進補助金

- ・対象施設 2件
- ・交付総額 5,000千円 (10年間交付の7年目)

(2) 事業の実績と成果

■拠点地区における誘導施設(補助対象)の立地状況(令和7年度末時点)

拠点分類	地区	大規模集客施設	食料品小売店 (1,500㎡以上)	内科を有する 医療施設
広域中核拠点	都心部	未立地	立地済	誘導済
地域交流拠点	鳥取大通地区		誘導済	立地済
	新橋大通地区		立地済	立地済
	桜ヶ岡地区		立地済	立地済
生活拠点	大森毛地区		未立地	未立地
	里が浦地区		立地済	未立地
	昭和地区		立地済	立地済
	春採下町地区		立地済	立地済
備考		上限1億5,000万円 (1,500万円/年)	上限2,000万円 (200万円/年)	上限3,000万円 (300万円/年)

①立地適正化推進補助金

- ・対象施設 2件
- ・交付総額 5,000千円 (10年間交付の7年目)

立地適正化計画 誘導区域総括図

誘導施設	広域中核拠点	地域交流拠点	生活拠点
大規模集客施設	●	●	●
食料品小売店(1,500㎡以上)	●	●	●
内科を有する医療施設	●	●	●

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・立地適正化計画に位置付けるまちづくりの実現に向けては、市民や事業者の理解・協力のもと、長期間に渡り息の長い取組を継続的に進めていくことが必要である。			課題	・立地適正化計画に位置付けるまちづくりの実現に向けては、市民や事業者の理解・協力のもと、長期間に渡り息の長い取組を継続的に進めていくことが必要である。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・都市機能誘導区域内において対象となる誘導施設を整備する事業者への補助金を交付する。			今後(令和9年度以降)の方向性	・都市機能誘導区域内において対象となる誘導施設を整備する事業者への補助金を交付する。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

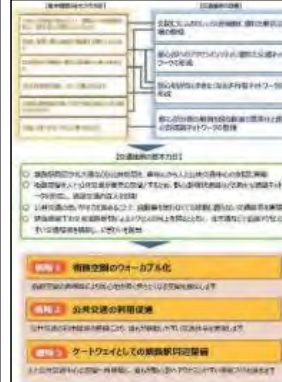
事業名	釧路駅周辺整備推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	都市整備部都心部まちづくり推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第2次釧路都市計画マスタープラン 釧路市地域公共交通計画 釧路都心部まちづくり計画【事業構想編】 都心部地区交通戦略
目的と概要	まちの顔である釧路駅周辺の再整備（都心部道路網の再編や土地区画整理事業等の面的整備）を推進し、ひがし北海道の中核都市として、拠点機能の充実とにぎわいの創出を図る。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
財源	事業費 総額 (千円)	26,136	7,324	31,507
	一般財源 (千円)	1,441	1,648	5,507
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)	24,695	5,676	26,000
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	22,164	22,860	30,844
①	職員数 (人)	3.0	3.0	4.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		48.8	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画

(1) 釧路都心部まちづくり計画の推進検討
・釧路駅周辺の再整備に関する新たな方針について、有識者との意見交換を実施する。

左：釧路都心部まちづくり計画【事業構想編】

右：都心部地区交通戦略

(2) 事業の実績と成果

(1) 釧路都心部まちづくり計画の推進検討
◎釧路駅周辺の再整備に関する新たな方針や、「釧路都心部まちづくり計画」の今後の進め方について、鶴間市長と有識者との意見交換を実施した(5/19、8/21)
◎釧路駅周辺の再整備に関する新たな方針について、市民説明会を開催した(7/18、7/23、8/1)
◎釧路駅周辺の再整備に関する新たな方針について、WEBでの意見募集を実施した(期間：7/7～8/3、意見総数：234件)



市民説明会の様子



意見募集の結果公表

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・釧路駅周辺の再整備に関する新たな方針が既存計画へ与える影響等を確認する必要がある。 ・関係機関(国土交通省、北海道、鉄道事業者)との協議を踏まえつつ、街路整備事業や土地区画整理事業などの各検討を進めていく必要がある。 ・街路空間の利活用などの社会実験を実施し、都心部地区交通戦略を推進する必要がある。			課題	・釧路駅周辺の新たな方針決定に伴い、関連する計画を改訂する必要がある。 ・釧路駅周辺の新たな方針のもと、関係機関(国土交通省、北海道、鉄道事業者)との協議を踏まえつつ、街路整備事業や土地区画整理事業などの各検討を進めていく必要がある。 ・街路空間の利活用などの検討を進め、都心部地区交通戦略を推進する必要がある。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・関係機関(国土交通省、北海道、鉄道事業者)と協議を行う。 ・街路整備事業の予備設計や土地区画整理事業の事業化に向けた検討を進める。 ・都心部地区交通戦略を推進する。			今後(令和9年度以降)の方向性	・関係機関(国土交通省、北海道、鉄道事業者)との協議を行う。 ・街路空間の利活用など、都心部のにぎわい創出検討を行い、都心部地区交通戦略を推進する。		

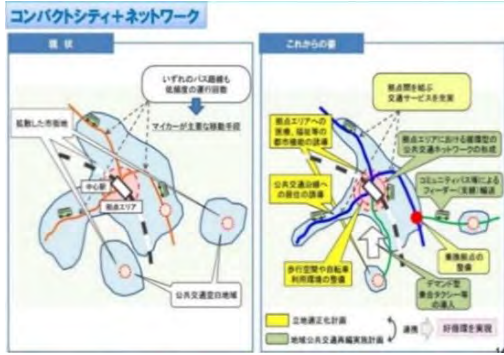
令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	公共交通活性化事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市都市計画マスタープラン 釧路市立地適正化計画 釧路都市圏の都市交通マスタープラン
目的と概要	人口減少や少子高齢化、自動車依存の高まりにより、バスなどの公共交通利用者が減少し、路線の確保・維持が課題となっている。 持続可能な公共交通を実現するため、過度に自動車へ依存する社会基盤を見直し、まちづくりと一体となった、利用者のニーズを把握した適切な公共交通体系の再構築を検討する。また、JR北海道単独では維持困難とされた釧網本線等の存続と活性化を図るため、沿線自治体等と連携した取組みを進める。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		1,510	19,668	18,823
財源	一般財源 (千円)	1,132	18,249	18,823
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)	378	1,419	
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	11,082	11,430	11,567
①	職員数 (人)	1.5	1.5	1.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		130.9	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
①地域公共交通活性化協議会の開催 法定協議会である地域公共交通活性化協議会の事務局として、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づいた事業実施に向けた協議を行うとともに、釧路市として負担金を支出し協議会の運営を支援する。 ②地域公共交通利便増進実施計画の着実な推進 利便増進実施計画の進捗管理及び路線バスキャッシュレス化について商業施設等と連携した周知活動を行い、公共交通の利用促進を図る。 《参考：地域公共交通のめざすイメージ》 	①地域公共交通活性化協議会の開催 4回開催(R7 6月・8月・9月、R8 3月) ②地域公共交通利便増進実施計画の着実な推進 路線バスのキャッシュレス決済や循環バスぐるっと、バスロケーションシステム、イベントの実施について広報くしろでの周知を行った。 併せて、「バスでおでかけプロジェクト」や「バスふれあいイベント」を実施し、公共交通の利用促進を図った。   ▲バスふれあいイベント (多良福まつり会場内) ▲広報くしろ7月号 (イベントの周知)
③JR釧網本線維持活性化沿線協議会・関連部会の開催及び取組みの実施 JR釧網本線維持活性化沿線協議会、同作業部会及びJR釧網本線維持活性化実行委員会の事務局として、JR北海道や沿線自治体とともに釧網本線の維持・活性化に向けた取組みを進めるとともに、釧路市として負担金を支出し協議会の運営を支援する。 ④バス借上げ活用事業 バス事業者の閑散期に実施される市内の小中学校及び義務教育学校の児童・生徒を対象とした新たな教育活動に対して、バス借上げ費用を助成することにより、小中学校の教育活動を促進するとともに、バス事業者の経営安定化を支援する。	③JR釧網本線維持活性化沿線協議会・関連部会の開催及び取組みの実施 ・協議会(1回)、作業部会(3回)、実行委員会(4回)開催 ・釧網本線の抜本的な改善方策の検討に繋げるための取組みとして、繁忙期に車両を増結のうえ指定席を導入する実証運行、3日間乗り降り自由の釧網線フリーバス販売に係る補助、サイクルトレインモニターツアー、トレイル&トレインルート造成事業、観光列車運行時の沿線駅でのおもてなし等を実施した。 ④バス借上げ活用事業 小学校(13校)、16事業、20台分の活用 訪問先：猛禽類医学研究所、湿原展望台、中学校訪問等

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	拡充	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	- まちづくりや観光振興等との一体性を確保した上、地域特性に応じた効率的で利便性の高い公共交通網を形成するため、市民や事業者と認識を共有することが重要である。 - 地域公共交通計画の改訂に向け、利用実態や利用者ニーズ等を調査する必要がある。 - 釧網本線等の維持・活性化に向け、関係機関が一体となった取組みが必要である。			課題	- まちづくりや観光振興等との一体性を確保した上、地域特性に応じた効率的で利便性の高い公共交通網を形成するため、市民や事業者と認識を共有することが重要である。 - 調査結果を基に地域公共交通計画を改訂し、持続可能な公共交通網の形成を目指す。 - 釧網本線等の維持・活性化に向け、関係機関が一体となった取組みが必要である。		
今後(令和8年度以降)の方向性	- 地域公共交通計画の取組みを推進するため、令和元年度に策定した地域公共交通利便増進実施計画に基づく、段階的な路線再編とその効果検証を行っていく。併せて、利用促進策を引き続き実施していく。 - 調査結果を基に地域公共交通計画を改訂し、持続可能な公共交通網の形成を目指す。 - 釧網本線等の維持・活性化に向け、JR北海道や沿線自治体と連携して取組みを進める。			今後(令和9年度以降)の方向性	- 地域公共交通計画の取組みを推進するため、新たに策定する地域公共交通利便増進実施計画に基づく、段階的な路線再編とその効果検証を行っていく。併せて、利用促進策を引き続き実施していく。 - 釧網本線等の維持・活性化に向け、JR北海道や沿線自治体と連携して取組みを進める。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	生活交通バス路線運行維持対策補助金＜9月補正＞＜2月補正＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市都市計画マスタープラン 釧路市地域公共交通計画 釧路市地域公共交通利便増進実施計画
目的と概要	路線バスは、移動手段を持たない地域住民にとって必要不可欠でありながら、人口減少や自動車保有台数の増加により、輸送人員が減少し地域住民の生活に必要なバス路線の維持が困難となっている。このようなことから、生活交通路線として必要なバス路線を維持・確保するため、赤字路線に対して補助金を交付することで、地域住民の足の確保に努めている。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		276,702	281,075	0
財源	一般財源 (千円)	276,702	281,075	0
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	6,649	6,858	0
①	職員数 (人)	0.9	0.9	0.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		1,871.3	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
①地域間幹線系統確保維持費 ●国及び道の補助金減額等に係る釧路市生活交通路線維持対策費補助金交付要綱制度分 ・経常収益見込額が経常費用見込額の11/20に満たないものの補填 ・みなし運行回数による減額補填分 平均乗車密度(1回の運行当たりの輸送人数)が5人未満の路線については、補助対象経費の一部が減額されるため、その減額分を補填 ・経常費用実績額と経常費用見込額との差額補填分 経常費用実績額が経常費用見込額を上回った場合に生じる差額の補填 ②広域生活交通路線維持費 ●北海道生活交通路線維持対策事業費補助金交付要綱制度分補助対象経費の1/2を補助、道の補助金減額等に係る釧路市生活交通路線維持対策費補助金交付要綱制度分 ・経常収益が標準経常費用の11/20に満たないものの補填 ・みなし運行回数による減額補填分 平均乗車密度(1回の運行当たりの輸送人数)が5人未満の路線については、補助対象経費の一部が減額されるため、その減額分を補填 ・実車単価と地域標準単価との差額補填分 実車キロ当たり単価が地域標準単価を上回った場合に生じる差額の補填 ③市町村生活バス路線運行費 ●北海道生活交通路線維持対策事業費補助金交付要綱制度分補助対象経費の9/10を補助 ④市町村単独補助路線維持費 ●釧路市生活交通路線維持対策費補助金交付要綱制度分、釧路市生活交通路線維持対策費補助金の特例に関する要綱制度分 ⑤地域内フィーダー系統確保維持費 ●釧路市生活交通路線維持対策費補助金交付要綱制度分 ・地域内フィーダー系統確保維持費の国庫補助を除いた欠損額を補助	①地域間幹線系統確保維持費 補助金:101,751千円(遠矢線など9系統) くしろバス(株) 8系統 95,547千円 阿寒バス(株) 1系統 6,204千円 ②広域生活交通路線維持費 補助金:36,133千円(晴海線など5系統) くしろバス(株) 3系統 25,199千円 阿寒バス(株) 1系統 5,861千円 くしろバス(株)、根室交通(株) 1系統 5,073千円 ③市町村生活バス路線維持費 補助金:20,179千円(阿寒本町線(山花経由)) 阿寒バス(株) 1系統 20,179千円 ④市町村単独補助路線維持費 補助金:110,551千円(新富士新野線など21系統) くしろバス(株) 14系統 80,296千円 阿寒バス(株) 7系統 30,255千円 ⑤地域内フィーダー系統確保維持費 補助金:12,461千円(ぐるっとなど6系統) くしろバス(株) 1系統 3,495千円 阿寒バス(株) 5系統 8,966千円 ◎成果 生活交通路線として必要なバス路線を維持・確保した。また、バス利用は回復基調にあるものの、経営状況の回復には至っておらず不安定となっているバス事業者のキャッシュフローの安定化をはかるため、一部を前倒しで支出することで事業者の経営を支援した。 10月支払額 くしろバス(株) 148,048千円 阿寒バス(株) 63,964千円

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	- 人口減少などに伴うバス利用者の減少 - 不採算路線などの路線存続 - バスの運転手不足			課題	- 人口減少などに伴うバス利用者の減少 - 不採算路線などの路線存続 - バスの運転手不足		
今後(令和8年度以降)の方向性	- 移動手段を持たない利用者には必要不可欠であることから、バス事業者との連携をさらに強化し、今後も生活交通バス路線を維持及び確保する。 - 国や道に対して、継続的な支援や補助内容の強化を要請していく。			今後(令和9年度以降)の方向性	- 移動手段を持たない利用者には必要不可欠であることから、バス事業者との連携をさらに強化し、今後も生活交通バス路線を維持及び確保する。 - 国や道に対して、継続的な支援や補助内容の強化を要請していく。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	コミュニティバス運行事業費＜6月補正＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	音別町行政センター地域振興課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市地域公共交通計画 釧路市コンパクトなまちづくりに関する基本的考え方
目的と概要	平成30年3月に路線バスである音別線の廃線、平成31年3月にはJR直別、尺別駅の廃止などにより、地域住民の交通手段の確保が必要となっていたことから、令和元年10月より音別地区コミュニティバスの運行を開始した。令和7年9月30日でのしるバスによる「白音線」が廃止となることから、令和7年10月1日より引き続き地域住民の交通手段の確保を目的として、コミュニティバスを白糠駅まで延長する。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)			1,637	
財源	一般財源 (千円)	0	1,637	0
	国庫支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	0	1,524	0
①	職員数 (人)		0.2	
参考	市民一人あたりの費用 (円)		10.9	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

- (1) 年度当初計画
- 音別地区コミュニティバスを白糠駅まで延長。
 - 地域住民の交通手段の確保のため、白糠駅まで音別地区コミュニティバスを延長する。
- ①音別地区コミュニティバス運行业務委託を契約変更(延長分を加算)。
- ②自家用有償旅客運送の変更
・釧路運輸局へ変更届を行う。
- ③住民周知
・音別地区コミュニティバス延長に伴う利用についての住民周知。
- ④10月1日より音別地区コミュニティバスを白糠駅まで延長開始。

【白糠町路線図】



- (2) 事業の実績と成果
- 音別地区コミュニティバスを白糠駅まで延長。
 - 白糠駅まで音別地区コミュニティバスを延長したことにより、地域住民の交通手段を確保。
- 【全体路線図】

音別地区コミュニティバス路線図



3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	令和7年度実施事業評価結果	評価	継続維持
課題	令和7年度からの新規事業のため、空欄となります。		課題	・コミュニティバスの運転手の担い手不足や高齢化により、将来にわたり安定した運行を維持できるかが課題となる。	
今後(令和8年度以降)の方向性	令和7年度からの新規事業のため、空欄となります。		今後(令和9年度以降)の方向性	・地域住民の交通手段の確保のため、委託業者と人員等の調整を図りながら、引き続き音別地区コミュニティバスを運行する。	

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	旧日本銀行釧路支店活用促進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	リバーサイドの景観や賑わいづくりにとって重要な役割を果たしている旧日本銀行釧路支店の建物は、多くの市民の思いを受けて平成28年に外観の保存を目的に取得し、建築から70年が経過している。老朽化が進み、活用を図るためには耐震改修工事（取得時点の積算で約15億円とされている）が必要であり、市内外より建物存続の手法や活用方法について幅広く提案を募り、さまざまな視点で方向性を探る。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
財源	事業費 総額 (千円)	740	193	44
	一般財源 (千円)	740	193	44
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	3,694	3,810	3,856
①	職員数 (人)	0.5	0.5	0.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		1.3	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
①敷地内草刈の実施	①敷地内草刈の実施 ・施設の維持管理のため、敷地内草刈りを1回実施。
②釧路市旧日本銀行釧路支店活用事業企画提案公募型プロポーザル審査委員会の開催	②釧路市旧日本銀行釧路支店活用事業企画提案公募型プロポーザル審査委員会の開催と最優良提案者との協議 旧日本銀行釧路支店とその周辺の釧路川リバーサイドエリアの賑わい創出をコンセプトとした活用を目的に、当該建造物の利活用について公募型プロポーザル審査委員会を開催し、最優良提案者を決定したが、年度内に企画提案内容の具体化に至らなかったため、年度末をもって企画提案募集を終了した。 【令和7年度事業経過】 令和7年5月 2者の提案に対するプロポーザル審査を実施 7月 最優良提案者を決定 ⇒市と事業者による企画提案内容についての具体的な協議を開始 令和8年2月 物価高騰等に伴い事業の採算性の検討に時間を要したため、区切りとなる年度末で協議を終了としたい旨、市から事業者に打診 ⇒事業者了承 3月 市議会への報告と必要な手続きを経て、正式に企画提案募集を終了

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・ 企画提案内容の実現に向けて、最優秀提案事業者と協議を行い事業の蓋然性を高めていく必要がある。			課題	・ 令和6年度～7年度にかけて実施した企画提案募集で寄せられた意見や結果をもとに、より実効性のある企画提案の応募を期待できる公募要件の検討が必要である。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ 昨今の物価高騰、人件費上昇等による建築コスト増加等の様々な課題を整理し、企画提案内容の実現に向けて、引き続き、最優秀提案事業者と協議を進めていく。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ 旧日本銀行釧路支店の利活用に向けて、再度の企画提案募集を実施する。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	市道整備事業＜繰越明許費＞＜当初＞
分類	令和6年度予算繰越明許事業 令和7年度予算の主要事業
所管課・室	都市整備部道路河川課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市橋梁長寿命化修繕計画 釧路市地域防災計画
目的と概要	生活道路の整備により、地区環境の向上や交通安全性の確保が図られる。 老朽化した橋梁を計画的に修繕することにより長寿命化と維持管理コストの削減を図る。 釧路市津波避難計画に基づき、大津波発生に対応する緊急避難用道路を整備することで、市民の安全で円滑な避難を実現する。

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
○舗装新設・排水設備費(市単独事業) 新川北1線1 道路改良 L=81m W=8.0m 蘇牛発電所道路(44線橋) 橋梁護岸補修 測量設計・調査等 1式 ○社会資本整備総合交付金対象事業費 鳥取橋 長寿命化修繕 1式 不二橋 長寿命化修繕 1式 新川橋 長寿命化修繕 1式 音別駅前通り(音別跨線橋) 上部工取替等 大井の沢線(鹿島橋) 修繕 1式 釧路大橋通 ロードヒーティング更新 L=100m ○緊急避難用道路整備事業費(交付金事業) 新釧路川左岸通2 柵渠工 1式【当初】 新釧路川左岸通2 路盤工 1式【R7.2月補正・R7年度繰越】 ○【ゼロ市】舗装新設・排水設備費(市単独事業) 鉄北東26号 道路改良 L=131m W=11.0m 昭和南8線 道路改良 L=50m W=11.0m 道路設計 1式	○舗装新設・排水設備費(市単独事業) 新川北1線1 道路改良 L=81m W=8.0m 蘇牛発電所道路(44線橋) 橋梁護岸補修 測量設計・調査等 1式 ○社会資本整備総合交付金対象事業費 鳥取橋 長寿命化修繕 1式 不二橋 長寿命化修繕 1式 新川橋 長寿命化修繕 1式 音別駅前通り(音別跨線橋) 上部工取替等 大井の沢線(鹿島橋) 修繕 1式 ○緊急避難用道路整備事業費(交付金事業) 新釧路川左岸通2 柵渠工 1式【当初】 新釧路川左岸通2 路盤工 1式【R7.2月補正・R7年度繰越】 ○【ゼロ市】舗装新設・排水設備費(市単独事業) 鉄北東26号 道路改良 L=131m W=11.0m 昭和南8線 道路改良 L=45m W=11.0m 道路設計 1式

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額	(千円)	712,249	632,053	1,372,832
一般財源	(千円)	105,060	54,452	47,017
国道支出金	(千円)	242,889	207,201	357,215
地方債	(千円)	364,300	370,400	968,600
使用料・手数料	(千円)			
その他特定財源	(千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考 職員人件費	(千円)	51,716	53,340	53,977
① 職員数	(人)	7.0	7.0	7.0
参考 市民一人あたりの費用	(円)		4,208.1	
② 市民一人あたりの将来負担額	(円)		2,466.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

◎交付金事業については予算要求額に対する交付決定額が減額されたが、補正予算を活用し事業の進捗を図った。市単独事業については概ね順調に進捗し、市民生活の利便性及び交通安全性が向上した。



3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	- 交付金事業の予算要求額に対する交付決定額が減額される傾向にあることから、事業執行については再検討が必要となる。 - 全道において跨線橋の点検や長寿命化修繕の業務が集中しており、また、補修に伴うJRとの個別協議において、条件整理等に時間を要している。			課題	- 交付金事業の予算要求額に対する交付決定額が減額される傾向にあることから、事業執行については再検討が必要となる。 - 全道において跨線橋の点検や長寿命化修繕の業務が集中しており、また、補修に伴うJRとの個別協議において、条件整理等に時間を要している。		
今後(令和8年度以降)の方向性	- 交付金事業については、国の補正予算の活用や重点施策に合致する事業について検討を進め、橋梁長寿命化については、補助・単独による点検及び修繕を継続し、事業進捗を図る。 - 事業中及び未実施箇所の跨線橋について、JRと引き続き個別協議を進める。 - 引き続き関係機関との協議を進め、新釧路川左岸通の整備を進める。			今後(令和9年度以降)の方向性	- 交付金事業については、国の補正予算の活用や重点施策に合致する事業について検討を進め、橋梁長寿命化については、補助・単独による点検及び修繕を継続し、事業進捗を図る。 - 事業中及び未実施箇所の跨線橋について、JRと引き続き個別協議を進める。 - 引き続き関係機関との協議を進め、新釧路川左岸通の整備を進める。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	低地帯浸水対策事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	都市整備部道路河川課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	鶴野東、中鶴野地区の低地帯では、大雨等による道路の冠水や住宅浸水の被害が発生しており、地域住民の生命と財産を守り、防災上の観点からも早急な河川整備が求められている。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
財源	事業費 総額 (千円)	300,216	345,824	3,509
	一般財源 (千円)	7,916	7,424	3,509
	国庫支出金 (千円)			
	地方債 (千円)	292,300	338,400	
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	14,037	14,478	6,940
①	職員数 (人)	1.9	1.9	0.9
参考	市民一人あたりの費用 (円)		2,302.4	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		2,253.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
①地権者協議 星が浦川河川改修工事に当たり、工事ヤードの確保等地権者(土地所有者)との協議を継続実施する。 ②星が浦川河川改修工事 星が浦川河川改修及び旧河道の埋戻しを行う。	①地権者協議 星が浦川河川改修工事に当たり、工事ヤードの確保等地権者(土地所有者)との協議を継続実施した。 ②星が浦川河川改修工事 河川改修及び旧河道の埋戻しを行い全て完了した。 ・河川改修:L=417m(全長:1,810m) ・旧河道埋戻し:L=417m

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果	評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果	評価	縮小
課題	・河川整備と公共下水道(雨水)整備との相乗効果により水害の解消は図られることから関係部署との連絡を図る。		課題	・星が浦川河川改修工事完了。 ・工事完了後、環境調査(キタサンショウウオ卵のう確認)について2年間程度実施する必要がある。	
今後(令和8年度以降)の方向性	・令和7年度星が浦川河川改修完了予定		今後(令和9年度以降)の方向性	・工事完了に伴う環境調査業務委託を実施。	

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	道路整備要望推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	「北海道横断自動車道釧路地区早期建設促進期成会」による開通区間の利用促進キャンペーンや、建設状況・整備効果の広報活動に係る経費。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		2,775	1,194	536
財源	一般財源 (千円)	761	1,194	536
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)	2,014		
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	7,388	7,620	7,711
①	職員数 (人)	1.0	1.0	1.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		7.9	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
道東自動車道の更なる延伸に向けて、要望活動と併せて、地域住民等に整備効果を伝えることにより歓迎機運を高めるとともに、開通区間の利用促進により整備効果を高める。なお、PRにあたっては「ウェルカム道東道！！オールくしろ魅力発信協議会」等と連携し、効率的なPR活動を展開する。 - くしろ港まつりにおけるPR活動 - 親子現場見学会 - 道東自動車道移動パネル展 - くしろ冬まつりにおけるPR活動 - オールくしろ魅力発信協議会との連携事業 - 北海道高速道路建設促進期成会との連携事業 - 道東自動車道シンポジウム - PRグッズの作成 ※「北海道横断自動車道釧路地区早期建設促進期成会」への負担金を計上。	- くしろ港まつりにおけるPR活動 日程：令和7年8月2日(土)・3日(日) 内容：パネル展示、パンフレット等の配布(600部配布) - 親子現場見学会 日程：令和7年10月13日(月祝) 内容：厚岸IC(仮称)、別寒辺牛川橋の工事現場を見学 34名(13家族・親17名、子ども17名)参加 - 道東自動車道移動パネル展 期間：令和7年10月～令和8年2月 内容：期成会構成自治体でパネル展を実施 - くしろ冬まつりにおけるPR活動 日程：令和8年2月8日(日) 内容：パネル展示、パンフレット等の配布(150部)、子ども向けイベントを実施 - オールくしろ魅力発信協議会との連携事業 同団体が実施した札幌市、音更町等でのイベントに参加しPRを実施 - 北海道高速道路建設促進期成会との連携事業 同団体が実施した札幌市、東京都でのイベントにパネルやチラシ、PRグッズを提供し、PRを実施 - 道東自動車道シンポジウム 「北海道横断自動車道釧路・根室間建設促進期成会」が主催したシンポジウムに共催として参加し開催 日程：令和7年10月26日(日) 会場：浜中町総合文化センター 内容：基調講演やパネルディスカッションを実施し約800名が参加 - PRグッズの作成 ポケットティッシュとオリジナルミニカーを作成し、各種イベントで配布
親子現場見学会の様子  くしろ冬まつりにおけるPR活動の様子  オリジナルミニカー 	

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	縮小	令和7年度実施事業評価結果		評価	縮小
課題	・本別～釧路間の全線開通により、移動時間の短縮のほか、観光振興や物流の効率化、防災の観点など様々な効果が期待されるものの、道東道の整備効果は根室までの開通により最大化されることから、今後も更なる延伸に向けて、利用促進や事業の必要性の周知を図る必要がある。			課題	・本別～釧路間の全線開通により、移動時間の短縮のほか、観光振興や物流の効率化、防災の観点など様々な効果がもたらされているものの、道東道の整備効果は根室までの開通により最大化されることから、今後も更なる延伸に向けて、利用促進や事業の必要性の周知を図る必要がある。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・開通を契機としたPR活動は一旦縮小するが、引き続き、別保尾幌道路、尾幌系魚沢道路の整備促進及び根室までの延伸に向け、要望活動及び利用促進活動を実施する。なお、今後の利用促進については、根室市が事務局の「北海道横断自動車道釧路・根室間建設促進期成会」と協議し、その手法、役割分担を検討する。			今後(令和9年度以降)の方向性	・開通を契機としたPR活動は一旦縮小するが、引き続き、別保尾幌道路、尾幌系魚沢道路の整備促進及び根室までの延伸に向け、要望活動及び利用促進活動を実施する。なお、今後の利用促進については、根室市が事務局の「北海道横断自動車道釧路・根室間建設促進期成会」と協議し、その手法、役割分担を検討する。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	港湾計画推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部港湾空港課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路港港湾計画
目的と概要	港湾計画の実現に向けた関係機関との調整や関連計画の策定、社会情勢の変化に対応した港湾計画の見直しなどを実施する。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		39,612	73,577	41,078
財源	一般財源 (千円)	1,904	36,577	41,078
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)	37,708	37,000	
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	22,164	22,860	19,278
①	職員数 (人)	3.0	3.0	2.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		489.9	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・ ひがし北海道の物流拠点、並びに、地域の賑わい創出に貢献する港湾になるべく、港湾計画を策定する。			課題	・ ひがし北海道の物流拠点としての機能強化や地域の賑わい創出に資する施策を推進する。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ 令和7年度に策定する釧路港長期構想を踏まえ、港湾計画の改訂を実施する。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ 令和8年度の港湾計画改訂で位置づけたハード整備やハード整備の効果を高めるソフト施策を展開する。		

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
① 釧路港長期構想策定業務委託 釧路港長期構想検討委員会運営業務委託 ・国土交通省などの関係行政機関や学識経験者などで構成する釧路港長期構想検討委員会を組織し、釧路港を取り巻く動向や課題を整理した上で、概ね20～30年後における釧路港の長期構想(目指すべき姿や役割)を検討する。 ② 釧路港船舶航行安全検討委員会運営業務委託 ・第一管区海上保安本部や釧路水先区水先人会などの操船経験者などで構成する釧路港船舶航行安全検討委員会を組織し、釧路港長期構想で検討している、東港区中央埠頭での大型クルーズ客船の受入れ拠点の整備に向け、これまでに寄港打診のあった18万トンクラス的大型クルーズ客船の入出港及び係留中の安全対策を検討する。	① 釧路港長期構想策定業務委託 釧路港長期構想検討委員会運営業務委託 ・長期構想のテーマを「ひがし北海道の価値を最大化するための貢献」とし、「物流・産業」「賑わい・交流」「環境・エネルギー」「防災・減災」の4つのテーマでの基本戦略と取組施策などをとりまとめた。  (釧路港長期構想(抜粋)と釧路港長期構想検討委員会の開催状況) ② 釧路港船舶航行安全検討委員会運営業務委託 ・18万トンクラスのMSCグランディオーサ、16万トンクラスのクワンタム・オブ・ザ・シーズを対象船舶とし、入出港及び係留中の安全対策をとりまとめた。  (入出港の安全対策(抜粋)と釧路港船舶航行安全検討委員会の開催状況)

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	国直轄港湾工事負担金＜繰越明許費＞＜当初＞＜2月補正＞
分類	令和6年度予算繰越明許事業 令和7年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部港湾空港課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路港港湾計画
目的と概要	ひがし北海道の物流拠点港湾として、西港区の施設整備を実施することで、外内貿の物流機能を強化し、効率的な海上輸送を構築する。また、東港区の老朽化施設対策を実施することで、港内の静穏度の向上など、船舶の航行の安全を図る。

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
①防波堤(島) ・港内側に浚渫土砂を活用した盛土マウンドを造成し、ブルーカーボン藻場の創出に寄与する。	①防波堤(島) ・背後盛土工、被覆工1式 (右写真:被覆ブロック据付状況) 
②防波堤(新西) ・港内に静穏水域を確保するとともに、航路や泊地への漂砂の流入を軽減し、船舶の航行の安全に寄与する。	②防波堤(新西) ・上部工1式 (右写真:上部コン打設状況) 
③防波堤(西)(改良) ・老朽化対策を実施し、港内に静穏水域を確保し、船舶の航行の安全に寄与する。	③防波堤(西)(改良) ・床堀工、補修工1式 (右写真:床堀状況) 
④航路・泊地(-14m) ・航路や泊地に流入した漂砂を浚渫し、船舶の航行の安全に寄与する。	④航路・泊地(-14m) ・浚渫工、土砂処分場造成ほか1式 (右写真:浚渫状況) 
⑤泊地(-9m) ・泊地に流入した漂砂を浚渫し、船舶の航行の安全に寄与する。	⑤泊地(-9m) ・浚渫工1式 (右写真:浚渫状況) 

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		632,010	562,181	991,650
財源	一般財源 (千円)	110	81	50
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)	631,900	562,100	991,600
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	22,164	22,860	19,278
①	職員数 (人)	3.0	3.0	2.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		3,742.9	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		3,742.3	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・ 国費の予算査定により、事業の進捗がやや遅れている。			課題	・ 国費の予算査定により、事業の進捗がやや遅れている。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ 事業の効果を早期に発現させるために、国費の予算確保について、国土交通省に要望する。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ 事業の効果を早期に発現させるために、国費の予算確保について、国土交通省に要望する。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	港湾開発整備促進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部港湾空港課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	港湾関係者との連携によるポートセールスの実施及びクルーズ客船の安定的寄港に向けての戦略的な誘致と歓迎行事等の実施により、賑わいのある港づくりを進め、釧路港の利用促進を図るとともにひがし北海道の拠点港としての役割を果たす。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		10,561	8,680	9,142
財源	一般財源 (千円)	10,561	8,680	9,142
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	7,388	7,620	7,711
①	職員数 (人)	1.0	1.0	1.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		57.8	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画

①ポートセールスの取り組み

ポートセミナーの開催

- ・実施主体: 釧路市、釧路商工会議所、釧路港湾振興会、釧路港湾協会、釧路食料基地構想協議会
- ・実施内容: 船社、荷主等を招致し、釧路港の利便性を説明

【ポートセールス】

■ソフト事業

- 官民一体となりポートセミナーを開催
- 港湾事業者個々の営業活動 等

【港湾の整備】

■ハード事業

- 港湾施設の整備促進や荷役環境整備等

【予想される事業効果として】

- 物流定期航路の誘致開設
- 集荷活動の拡大 等

②クルーズ客船誘致、受入事業

- ・クルーズ客船受け入れツールの充実や、ホスピタリティの向上支援
- ・クルーズ船社への訪問、寄港要請

(2) 事業の実績と成果

①ポートセールスの取り組み

◎ポートセミナー活動実績(直接的事業効果指標)

- ・東京と道内(札幌)で開催し、釧路港のPRを行った。
11/28 札幌開催(80社135名)
2/12 東京開催(104社228名)

◎取扱貨物量(間接的事業評価指標)

暦年	総計	国外		国内	
		輸出	輸入	移出	移入
R6	13,595,149	128,102	2,627,409	4,330,427	6,509,211
R7	13,297,365	138,838	2,616,805	4,218,927	6,322,795

※R7は速報値

単位: t

②クルーズ客船誘致、受入事業

◎クルーズ客船年度別入港実績

年度	寄港回数			乗船客数(人)	入港料(円)
	合計	邦船	外国船		岸壁使用料(円)
R6	14	0	14	19,234	1,831,973
					7,543,088
R7	12	2	10	10,588	1,022,937
					5,554,374

◎クルーズ客船誘致のための船社訪問 等

日本船社(1社)、海外船社(1社)、旅行代理店(3社)

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・新規貨物の発掘や新規航路開拓につながるよう、新たなセールス方法、PR内容の検討が必要 ・クルーズ誘致、受入事業は、①受入体制の充実 ②旅客船の大型化への対応 ③経済波及効果を高める対応の検討が必要			課題	・新規貨物の発掘や新規航路開拓につながるよう、新たなセールス方法の検討が必要 ・クルーズ誘致、受入事業は、①二次交通等の受入体制の充実 ②旅客船の大型化への対応 ③経済波及効果を高める対応の検討が必要 ・2024年問題等により、陸送の輸送力低下が予想されるため、モーダルシフトの推進に向けた釧路港のPR内容の検討が必要		
今後(令和8年度以降)の方向性	・背後圏の貨物情報をPR材料とした船社訪問や港湾関連事業者と連携したセミナーの開催により新規航路開拓につなげる等の様々な事業を推進していく。 ・充実したクルーズ受入体制を図るため、地元学生のクルーズ参加促進を図る。 ・クルーズ乗客をターゲットとした地元産品の消費拡大を図る取り組みを検討。			今後(令和9年度以降)の方向性	・背後圏の貨物情報をPR材料とした船社訪問や港湾関連事業者と連携したセミナーの開催により、新規航路開拓につなげる等の様々な事業を推進していく。 ・クルーズ客船の寄港によるまちなかや地域経済の活性化に資する取り組みの検討。 ・二次交通に関する受入体制及び方向性の検討。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	空港拡張整備促進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第二期釧路市観光振興ビジョン
目的と概要	釧路空港はひがし北海道の拠点空港として極めて重要な役割を担っていることから、航空会社への要請活動や航空会社と連携した利用促進事業の実施により、航空路線の維持及び利用客数の増加につなげていく。

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画					(2) 事業の実績と成果				
【要請活動及び利用促進事業】					【要請活動及び利用促進事業】				
①航空会社要望 東京便の機材大型化、大型化機材の増便、運航期間延長等の要請活動、並びに、中部・伊丹線・関西線の通年運航及び運航延長への要請活動の実施					①航空会社要望(令和7年9月30日～10月3日) ◎要望先: 日本航空、全日本空輸、フジドリームエアラインズ Peach Aviation、AIRDO、北海道エアシステム ◎参加団体: 釧路市、釧路観光コンベンション協会、阿寒観光協会まちづくり推進機構、北海道エアポート				
②航空会社(JAL・ANA・AIRDO・HAC)とタイアップしたWEB等による利用促進事業の実施					②航空会社(JAL・ANA・AIRDO・HAC)とタイアップしたWEB等による利用促進事業の実施 《JAL》JAL公式WEB/SNS媒体で釧路記事紹介PR 等 《ANA》ANA公式デジタル広告配信サービスを活用した路線PR 等 《AIRDO》機内、SNS広告によるPR 等				
③季節便就航などにおける歓迎行事の実施(各関係機関との連携)					③季節便就航などにおける歓迎行事の実施 ◎Peach関西線/JAL中部線/ANA伊丹線/FDAチャーター便の初便歓迎				
④「航空乗継利用促進協議会」合同キャンペーンの実施					④「航空乗継利用促進協議会」合同キャンペーンの実施 ◎「航空乗継利用促進協議会(事務局: 石川県)主催の乗継利用者対象合同キャンペーン」参加。当選者へ地域産品を提供				
⑤Peach関西線における利用促進事業の実施					⑤Peach関西線における利用促進事業の実施 ◎Peach公式ひがし北海道ページを活用したWEB/SNS広告、Peach旅行商品の広告宣伝を実施				
⑥名古屋・大阪地区観光プロモーション事業の実施					⑥名古屋・大阪地区観光プロモーション事業の実施 ◎帯広市、北海道エアポートと連携し中部国際空港PRイベント参加、中部地区メディア(TV・新聞社)告知等を実施 ◎北海道エアポートと連携した関西プロモーション参加				
【予算・決算データ】					【事業成果】				
令和6年度 (決算額)					プロモーションを通じて顧客の興味関心や年齢層、性別等の属性データを収集・蓄積した。これらの取り組みに加え、路線の利用促進を図ったことで、R7年度の定期便利用者数が前年度及びコロナ前を上回るなど、各路線の乗降客数及び利用率の増加につなげることができた。				
令和7年度 (決算額)									
令和8年度 (予算額)									
事業費 総額 (千円)									
一般財源 (千円)									
国道支出金 (千円)									
地方債 (千円)									
使用料・手数料 (千円)									
その他特定財源 (千円)									
【参考データ】									
令和6年度 (決算額)									
令和7年度 (決算額)									
令和8年度 (予算額)									
参考 職員人件費 (千円)									
① 職員数 (人)									
参考 市民一人あたりの費用 (円)									
② 市民一人あたりの将来負担額 (円)									
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)									
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。									

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・ 釧路空港における乗降客数は増加傾向にあるが、現在運航している路線の維持及び拡大を目指し、航空会社や北海道エアポート等と連携した利用促進事業は継続していく必要がある。また、航空路線の維持・拡大には利用率の増加が必須であるが、特に釧路地域からの送客に係る利用促進を図っていく必要がある。			課題	・ 乗降客数は増加傾向にあるが、路線の維持や機材拡大に向け利用率のさらなる向上が必須である。今後は利用促進の根拠となる顧客データ等の情報戦略が課題であり、特に人口面でアドバンテージの少ない釧路地域からの送客(アウト)において、蓄積したデータを活用し、ターゲットを絞りピンポイントに訴求する仕掛けづくりが必要である。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ くしろ地域広域観光誘致推進協議会を中心に、航空会社や北海道エアポート、関係自治体等と連携し、航空路線の利用率向上及び利用客数の増加に向けた利用促進を進めていく。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ くしろ地域広域観光誘致推進協議会を中心に、航空会社や北海道エアポート等の関係機関と連携し、よりデータ収集・蓄積に重きを置いた情報戦略を展開するとともに、その分析結果に基づいた効果的なプロモーションを展開し、航空路線の利用率向上及び利用客数の増加を進めていく。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	釧路空港国際化推進事業＜当初＞＜9月補正＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第二期釧路市観光振興ビジョン
目的と概要	くしろ広域観光誘致推進協議会を主体とした、海外航空会社や旅行会社への要請活動や観光プロモーションの実施により、国際定期便・チャーター便誘致に繋げ、海外からの観光客増加による当地域への観光消費・経済波及効果を図る。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費	総額 (千円)	3,117	6,320	3,362
財源	一般財源 (千円)	3,117	6,320	3,362
	国庫支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	7,388	7,620	7,711
①	職員数 (人)	1.0	1.0	1.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		42.1	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
1. くしろ広域観光誘致推進協議会事業 釧路・根室管内の行政・観光協会・民間企業等71団体で構成する本協議会において、釧路空港の管理・運営を行う北海道エアポートをはじめ、北海道運輸局・北海道観光機構等と連携して国際定期便・チャーター便誘致並びに広域連携による海外観光客誘致事業を実施し、地域の魅力を生かした交流人口の拡大と経済振興を図る。 (1) 国際航空路線誘致に向けた海外航空会社等への要請活動 (2) 海外メディア・旅行会社等招聘	1. くしろ広域観光誘致推進協議会事業 (1) 国際航空路線誘致に向けた海外航空会社等への要請活動 ◎R7.7.17～18 韓国航空会社及び旅行会社へ要請活動 (航空会社3社、旅行代理店他4社) ◎R7.8.21～22 台湾航空会社及び旅行会社へ要請活動 (航空会社1社、旅行代理店8社)   チャイナエアライン訪問 山富国際旅行社訪問 (2) 海外メディア・旅行会社等招聘 (メディア掲載に向けた取材協力、道東地域への誘客促進を目的としたツアー造成に係る意見交換等を実施) ① オランダメディア招聘事業 オランダ旅行雑誌と契約するカメラマン・ライターを招聘。 連携: 一般社団法人釧路観光コンベンション協会 ② ドイツ人インフルエンサー招聘事業 ドイツ人インフルエンサー2名を招聘。 連携: 一般社団法人釧路観光コンベンション協会 ③ カナダ旅行会社等招聘事業 カナダ旅行会社1名、カナダ旅行雑誌のライター1名を招聘。 連携: 一般社団法人釧路観光コンベンション協会 ④ オーストラリア旅行会社招聘事業 オーストラリアの旅行会社2名を招聘。 ⑤ 韓国旅行会社・旅行会社招聘事業 とから帯広空港就航のエアロK並びに旅行会社4社を招聘。 連携: [釧路、十勝、オホーツク]観光連盟、帯広市、網走市 ⑥ 台湾航空会社・旅行会社招聘事業 台湾チャーター便誘致を目的にチャイナエアライン並びに旅行会社5社招聘。 連携: [釧路、十勝、オホーツク]観光連盟、帯広市、網走市 ⑦ タイ旅行会社招聘事業 タイ旅行会社4名招聘。   ゲルス視察 和商市場視察 【事業成果】 航空会社や旅行会社への要請、各国の旅行会社やメディアの招聘を実施し、釧路エリアのプロモーションによる誘客促進を図ることができ、訪日外国人の増加につながった。

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・チャーター便運航の実現と誘客促進を図るためには、航空会社への要請のほか、合わせて旅行会社へのセールスや招聘を継続していく必要がある。			課題	・チャーター便の安定的な運航と確実な誘客につなげるためには、航空会社への働きかけに留まらず、旅行会社に対する継続的なセールスや招聘事業を戦略的に展開していくことが不可欠である。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・北海道エアポートや観光協会等の関係機関と連携し、主にターゲットとしている台湾を中心に、航空会社に対する要請活動や各種プロモーションの強化に取組み、海外観光客のさらなる誘客促進と国際線誘致に繋げていく。			今後(令和9年度以降)の方向性	・必要な見直しを行うとともに、北海道エアポートや観光協会等と連携した台湾等への航空会社要請・プロモーションを基軸としつつ、市場ニーズに即した釧路コンテンツの情報発信を強化し、旅行会社へのセールスや招聘事業を通じた現地ニーズに合った確かな紹介・提案を展開することで、海外観光客のさらなる誘客促進と国際線誘致につなげていく。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	公営住宅等建設事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部住宅課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市住生活基本計画 釧路市公営住宅等長寿命化計画
目的と概要	建替事業主体から既存ストック活用へ転換を進める。 将来の既存ストック量を推計し、建替・改修等の事業を実施することで、維持管理コストの低減を図る。

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
(堀川団地) ・B棟建設工事(建設年次:R5～7年度、1棟50戸) (解体工事) ・グリーン団地GR06,07(2棟10戸) ・まりも団地ML07,08(2棟32戸) ・美原団地M3,4(2棟80戸) ・白樺台C団地(14棟55戸) ・堀川団地DH5(1棟55戸) ・堤団地TT04,05(2棟10戸) ・鳥取大通1丁目木造平屋建 (長寿命化改善工事) ・阿寒湖畔3団地K305(屋根・外壁)(1棟12戸) ・阿寒湖畔3団地K301～304(共用玄関周囲)(4棟54戸) ・緑ヶ岡団地GH1(屋根・外壁)(1棟32戸) ・芦野団地たんちよう(屋根・外壁)(1棟30戸) (公営住宅等ストック改善) ・阿寒湖畔3団地K301～305共用部及び駐車場外灯(脱炭素社会対応型) ・武佐団地、緑ヶ岡団地、鶴ヶ岱団地、米町団地、芦野団地、共用部及び駐車場外灯(脱炭素社会対応型) (業務委託) ・まりも団地C棟建設に係る省エネ適合性判定 ・グリーン団地C棟実施設計 ・堀川団地C棟地質調査 ・堀川団地C棟実施設計	◎各団地とも、計画通り実施した。 写真1 堀川団地B棟(RC造5階建・50戸) 写真2 芦野団地たんちよう(RC造5階建・30戸) 写真3 緑ヶ岡団地GH1(RC造4階建・32戸)

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		1,683,371	1,348,900	418,546
財源	一般財源 (千円)	12,987	38,199	18,609
	国道支出金 (千円)	804,984	614,401	183,737
	地方債 (千円)	865,400	696,300	216,200
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	22,164	22,860	23,133
①	職員数 (人)	3.0	3.0	3.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		8,980.7	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		4,635.8	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・長寿命化計画に基づき、計画的な修繕・改修を行ってきたが、更新時期をむかえる老朽化した住棟が多く、ストック削減の為に既存住棟への住替集約を行いたくても困難な状況となっており、建替えによる住替集約を進めていくことが必要なことから、建替事業の平準化を図る為にも、長寿命化計画の見直しを行う必要がある。			課題	・長寿命化計画を基本とし、ストック改善や建替事業等を進めているが、昭和年代建築の住棟は62%、特に釧路地区では72%を占め、老朽化が進行している状況にある。居住性能、立地状況等を総合的に判断し、計画的な立替え、集約等を行う必要があり、次期計画の見直しにおいて、住戸の集約化や団地住棟の再編等を施策とする計画策定に取り組む。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・令和8年から2カ年で長寿命化計画の見直しに着手する予定としており、ストックの適正化と建替事業の平準化を図るとともに、国が求める一次消費エネルギー削減に対応するZEH水準の要件に適合した公営住宅を整備していく。			今後(令和9年度以降)の方向性	・令和9年度以降は、長寿命化計画の進捗状況を検証し、必要に応じた見直しや調整を行いながら、ストックの適正な管理と更新の最適化を進めるとともに、建替事業の平準化を図りながら、ZEH水準の要件に適合した公営住宅を計画的に整備していく。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	空家等対策事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部建築指導課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
	釧路市耐震改修促進計画
目的と概要	適切に管理されていない空家等への対策に向け、空家等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、釧路市の空家等の問題解消を図る。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		227,675	7,327	151,681
財源	一般財源 (千円)	114,151	4,314	76,074
	国道支出金 (千円)	113,524	3,013	75,607
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	11,082	11,430	11,567
①	職員数 (人)	1.5	1.5	1.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		48.8	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
1. 空家等対策計画の推進 適切に管理されていない空家等への対策を計画的に推進するため、当該計画に基づいた空家等対策協議会を開催する。 2. 空家等の適正な維持管理の喚起 広報紙・ホームページ・パンフレット等により空家等の適正な維持管理等について喚起を行う。 3. 特定空家等の認定 市内の特定空家等の調査を行い、認定を実施する。 4. 不良空家等除却補助制度の実施 ・補助額 除却工事費の1/3の額(上限300千円) ・予算件数及び予算額 30件 9,000千円 5. 空家等に関する苦情・相談対応 ・市民からの空家等に対する苦情・相談等に対応する。 ・空き家等対策に関する協定を締結している民間専門家6団体と協力し、空き家無料合同相談会を開催する。 ※民間専門家6団体…北海道宅地建物取引業協会釧路支部 北海道建築士事務所協会釧路支部 釧路司法書士会 釧路弁護士会 釧路市建設事業協会 北海道行政書士会	1. 空家等対策計画の推進 計画に基づいた施策の推進のため、空家等対策協議会を開催し、特定空家等の認定に係る意見や空家等に関する施策の進め方等についての協議を実施。 ・空家等対策協議会の開催2回 2. 空家等の適正な維持管理の喚起 ・固定資産税の納税通知書に 啓発パンフレットを同封(58,450部) ・広報くしろに啓発記事を掲載 ・ホームページによる啓発 3. 特定空家等の認定 ・特定空家等の認定及び特定空家等に対し行政指導を実施した。 ◎認定件数 1件 ◎行政指導 1件 ・令和7年度末時点での特定空家等の件数 42件 4. 不良空家等除却補助制度の実施 ◎補助金交付者 23件 6,819千円 5. 空家等に関する苦情・相談対応 ・市民からの通報があった空家等について、現地確認をし、管理が不適切な空き家の所有者に対して、指導を行った。 ◎通報件数 242件 指導件数 243件 ・空き家無料合同相談会開催 ◎来談者 延べ31組(46名)(相談内容…売買・賃貸、解体、相続等)

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	- 適切な管理がされていない空き家の所有者に対して、改善の指導を行い、修繕や除却に結び付いているものもあるが、中には改善が見られない空き家もあり、効果的な所有者への助言指導の実施や新たな空き家発生させない取組を行う必要がある。 - 空き家の改善が進まない理由として、所有者の経済的理由や近年の解体費の高騰などがあるため補助等の支援拡充を検討する必要がある。 - 大規模空き建築物(空きビル)への対応については、所有者への指導を繰り返し行った結果、今般、都心部にある特定空家等の空きビル1棟が解体された。このほかにも老朽度が高い空きビルが点在しており、継続して対策していく必要がある。			課題	- 適切な管理がされていない空き家の所有者に対して、改善の指導を行い、修繕や除却に結び付いているものもあるが、改善が見られない空き家もあり、所有者への効果的な助言指導の実施や新たな空き家発生させない取組を行う必要がある。 - 改善が進まない理由として、所有者の経済的理由や近年の解体費の高騰の他、相続関係の複雑化などの要因があるため補助等の支援拡充を検討する必要がある。		
今後(令和8年度以降)の方向性	- 空き家は私有財産であり、第一義的には所有者の責任において管理を行うものであることから、所有者に対して適切な助言や指導を行うとともに、新たな空き家を作らせないためにパンフレットの配布や広報紙・市HPでの周知啓発を行う。また、空き家対策協定を締結している民間専門家6団体と連携して、合同相談会や空き家セミナー開催するほか、空き家の解消に向けた方策も検討していく。 - 老朽度が高い空家等の改善に向けて、除却補助制度を継続するとともに、国に対して国の補助率嵩上げ等の支援強化を求めていく。 - 大規模空き建築物(空きビル)への対策については、所有者に対して適切な管理を求める助言指導を行うとともに、市単独では解決が困難であることから国に対し、法的仕組みや財政支援等の要望を継続する。			今後(令和9年度以降)の方向性	- 空き家の所有者に対して適切な助言や指導を行うとともに、新たな空き家を作らせないための周知啓発を強化する。今後も空き家の増加が見込まれることから、空き家所有者だけでなく、現在住宅に住んでいる居住者に向け、SNSや動画発信等の手法を用いた新たな普及啓発について検討していく。また、空き家対策協定を締結している民間専門家6団体と連携し、合同相談会や空き家セミナー開催を通じ、空き家の解消に向けた方策も検討していく。 - 老朽度が高い空家等の改善に向けて、除却補助制度を拡充するとともに、国に対して国の補助率嵩上げ等の支援強化を求めていく。大規模空き建築物(空きビル)への対策については、所有者に対して適切な管理を求める助言指導を行うとともに、市単独では解決が困難であることから国に対し、法的仕組みや財政支援等の要望を継続する。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	住宅エコリフォーム補助金＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部建築指導課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市住生活基本計画 釧路市環境基本計画
目的と概要	安心、安全で良質な住宅ストックの形成により、市民の住生活の向上を図るとともに市内住宅関連産業の促進に貢献することを目的として、市民が実施する一定基準の省エネ改修工事やバリアフリー改修工事の一部に補助金を交付する。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
財源	事業費 総額 (千円)	4,464	2,091	4,662
	一般財源 (千円)	1,513	1,120	2,568
	国庫支出金 (千円)	2,951	971	2,094
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	7,388	7,620	7,711
①	職員数 (人)	1.0	1.0	1.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		13.9	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果																					
1. 住宅エコリフォーム補助金 (1)補助対象工事 ○省エネ改修工事(昭和56年6月1日以降に着工された建物) 省エネ基準(平成28年告示基準)に対応する開口部、躯体等の断熱改修工事 ○バリアフリー改修工事 ○省エネ改修とバリアフリー改修を同時に行う工事 (2)補助金額 ①基本補助:補助対象金額10%以内。限度額50万円。 ②高齢者同居加算:高齢者(65歳以上)と同居の場合、補助率を5%加算。限度額75万円。 ③地域材利用加算:使用された地域材(10千円/㎡)を乗じて加算。 (3)予算額 ・基本分 省エネ改修 500千円×4件=2,000千円 バリアフリー改修 210千円×18件=3,780千円 ・高齢者同居加算 854千円 ・地域材利用加算 22千円 予算額合計 6,656千円	1. 事業実施件数及び事業実施金額 <table><thead><tr><th></th><th>実施件数</th><th>補助金額</th></tr></thead><tbody><tr><td>基本分(省エネ改修+バリアフリー改修)</td><td>※28件</td><td>1,946千円</td></tr><tr><td>(内、省エネ改修分)</td><td>※(1件)</td><td>(112千円)</td></tr><tr><td>(内、バリアフリー改修分)</td><td>※(27件)</td><td>(1,834千円)</td></tr><tr><td>高齢者同居加算分</td><td>4件</td><td>135千円</td></tr><tr><td>地域材利用加算分</td><td>1件</td><td>10千円</td></tr><tr><td>合計</td><td>28件</td><td>2,091千円</td></tr></tbody></table> 2. 事業の周知 ・市ホームページへの掲載 ・広報くしろに3回掲載(4月、6月、8月) ・パンフレットを配布(阿寒町・音別町行政センター、阿寒湖温泉支所、鳥取支所、コアかがやき、コア大空、コア鳥取) ・固定資産税納税通知書に啓発パンフレットを同封(58,450部) ・建設事業協会への周知		実施件数	補助金額	基本分(省エネ改修+バリアフリー改修)	※28件	1,946千円	(内、省エネ改修分)	※(1件)	(112千円)	(内、バリアフリー改修分)	※(27件)	(1,834千円)	高齢者同居加算分	4件	135千円	地域材利用加算分	1件	10千円	合計	28件	2,091千円
	実施件数	補助金額																				
基本分(省エネ改修+バリアフリー改修)	※28件	1,946千円																				
(内、省エネ改修分)	※(1件)	(112千円)																				
(内、バリアフリー改修分)	※(27件)	(1,834千円)																				
高齢者同居加算分	4件	135千円																				
地域材利用加算分	1件	10千円																				
合計	28件	2,091千円																				
2. 事業の周知 ・市ホームページへの掲載 ・広報くしろへの掲載 ・パンフレットを各支所等(7カ所)へ配布。 ・固定資産税納税通知書にパンフレットを同封。 ・建設事業協会への周知。	【配布したパンフレット】 																					

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・当補助制度は、安心、安全、快適で良質な住宅ストックの形成や、カーボンニュートラルの実現に向けた省エネ化推進のため、国や道の取組と連携して実施。 ・国において、窓リノベや子育てグリーンなどの住宅リフォームに対する補助制度を実施しており、当制度の補助内容と重複していることも関係して、近年、省エネ改修分の申請実績が伸び悩んでいる現状があり、制度の方向性についての検討を行う必要がある。			課題	・当補助制度は、安心、安全、快適で良質な住宅ストックの形成や、カーボンニュートラルの実現に向けた省エネ化推進のため、国や道の取組と連携して実施しているが、国においても窓リノベや子育てグリーンなどの住宅リフォームに対する有利な補助制度を実施しており、当制度の補助内容と重複しているため、近年、省エネ改修分の申請実績が伸び悩んでいる現状にある。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・現状や当制度の需要等を踏まえた上で、国や道の動きも見極めながら、当補助制度のあり方や既存住宅のリフォームなどの中間利用策を研究し、今後の方向性を定めていく。			今後(令和9年度以降)の方向性	・物価高騰によって新築住宅の取得価格が上昇、住宅市場においても中古住宅の需要が高まっていることから、当制度の需要等を踏まえた上で、国や道の動きも見極めながら、当制度のあり方や既存住宅のリフォームなどの中間利用策を研究していく。 ・省エネ改修分については、国の窓リノベや子育てグリーンなどの住宅リフォームに対する有利な補助制度と重複しているため、当制度の規模見直しを検討していく。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

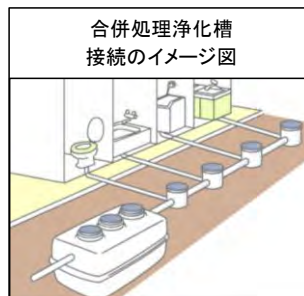
1 事業名等

事業名	合併処理浄化槽補助金＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	市民環境部環境保全課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2次釧路市環境基本計画 釧路市生活排水処理基本計画
目的と概要	釧路市生活排水処理基本計画に基づき、下水道整備計画区域外での合併処理浄化槽の設置を促進するため、設置希望世帯への設置費助成を行う。 また、浄化槽法第11条に基づく法定検査費用を助成し、浄化槽設置者の負担軽減を行うとともに、設置も促進する。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		1,668	2,937	3,398
財源	一般財源 (千円)	1,110	2,639	2,804
	国庫支出金 (千円)	558	298	594
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	8,866	9,144	9,253
①	職員数 (人)	1.2	1.2	1.2
参考	市民一人あたりの費用 (円)		19.6	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
① 合併処理浄化槽設置費補助 (平成22年度から継続) ○ 助成金額及び件数 ・ 合併処理浄化槽設置費補助 5人槽 600千円 × 2件 7～10人槽 800千円 × 1件 ・ 単独処理浄化槽撤去費用補助 120千円 × 1件 ・ 宅内配管工事費補助 300千円 × 1件 合計 2,420千円 ② 合併処理浄化槽維持管理費補助 (平成25年度から継続) ○ 助成金額及び件数 9千円 × 97件 合計 873千円 ③ 合併処理浄化槽設置費補助制度の周知	① 合併処理浄化槽設置費補助 ◎ 助成金額及び件数 ・ 合併処理浄化槽設置費補助 5人槽 600千円 × 3件 7～10人槽 800千円 × 0件 ・ 単独処理浄化槽撤去費用補助 120千円 × 0件 ・ くみ取り便槽撤去費用補助 90千円 × 1件 ・ 宅内配管工事費補助 300千円 × 1件 合計 2,190千円 ② 合併処理浄化槽維持管理費補助 ◎ 助成金額及び件数 9千円 × 83件 合計 747千円 ③ 合併処理浄化槽設置費補助制度の周知 ◎ 市ホームページおよび広報くしろによる補助制度の周知



合併処理浄化槽とは、トイレからの汚水とそれ以外の排水(生活雑排水)を「併」せて「処理」することができる、小さな下水道施設のような設備です。

合併処理浄化槽に接続することで、単独処理浄化槽やくみ取り便槽では処理できないお風呂や台所からの排水も処理できます。

単独処理浄化槽から合併処理浄化槽に転換した場合、放流される排水の汚れは10分の1以下になります。



3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・ 対象者の高齢化や設置費用が高額であることを主な要因として、既設住宅における単独処理浄化槽や汲み取り便槽からの合併処理浄化槽転換が進んでいない。			課題	・ 対象者の高齢化や設置費用が高額であることを主な要因として、既設住宅における単独処理浄化槽や汲み取り便槽からの合併処理浄化槽転換が進んでいない。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ 補助制度を活用した合併処理浄化槽設置数は低迷しているものの、一定数の実績があることから補助件数、金額を現状維持とする。令和6年度は、単独処理浄化槽および汲み取り便槽から合併処理浄化槽への切替を促すため、令和5年度に実施した対象者への補助制度の周知や浄化槽設置事業者との連携による周知に努めたことから、引き続き設置推進の取組を継続する。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ 補助制度を活用した合併処理浄化槽設置数は低迷しているものの、一定数の実績があることから設置費補助制度は今後も維持する。令和7年度は、単独処理浄化槽および汲み取り便槽から合併処理浄化槽への切替を促すため、令和6年度に実施した対象者への補助制度の周知や浄化槽設置事業者との連携による周知に努めたことから、引き続き設置推進の取組を継続する。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	都市公園整備事業＜繰越明許費＞＜当初＞
分類	令和6年度予算繰越明許事業 令和7年度予算の主要事業
所管課・室	都市整備部公園緑地課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市公園施設長寿命化計画 釧路市緑の基本計画
目的と概要	緑の基本計画に基づく公園整備により、児童の安全な遊び場と地域コミュニティの場を確保し、住区環境の向上を図るとともに、緑化率を高めることで、より良好な都市環境の形成を図る。 また、長寿命化計画による施設の改築を行うことにより、公園施設の事後的な維持管理から、予防的な維持管理への転換を図り、公園利用者の安全・安心を確保する。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		90,304	212,916	161,963
財源	一般財源 (千円)	5,810	12,713	9,763
	国庫支出金 (千円)	39,194	94,103	72,500
	地方債 (千円)	45,300	106,100	79,700
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	44,328	45,720	46,266
①	職員数 (人)	6.0	6.0	6.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		1,417.5	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		706.4	
注1) 釧路市の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
1 施設整備 【補助事業】 鶴野東2号公園(街区公園) 遊戯施設整備・敷地造成他 一式 【単独事業】 鶴野東2号公園(街区公園) 補助事業対象外の整備 一式 2 施設改築 【補助事業】 老朽化した施設の更新 21公園 (遊戯施設 28施設、一般施設 6施設)	1 施設整備 【補助事業】 鶴野東2号公園(街区公園) 遊戯施設整備・敷地造成他 一式 【単独事業】 鶴野東2号公園(街区公園) 補助事業対象外の整備 一式 2 施設改築 【補助事業】 老朽化した施設の更新 21公園 (遊戯施設 30施設、一般施設 6施設)   【単独事業】 補助対象外公園施設の更新等 (8公園、一般施設等 一式)

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・ 老朽化した施設の計画的な改築のための予算措置と、更新した施設の定期的な保守管理・修繕等の実施。			課題	・ 老朽化した施設の計画的な改築のための予算措置と、更新した施設の定期的な保守管理・修繕等の実施。 ・ 持続可能なまちづくりの観点から維持管理の効率化を図るとともに、公園利用者の期待に合致するよう、既存公園等の機能の集約や再編等について検討が必要。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ 公園利用者の安全確保のため、計画的な改築事業の継続、およびライフサイクルコストの縮減に資する資材の使用に努める。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ 公園利用者の安全確保のため、計画的な改築事業の継続、およびライフサイクルコストの縮減に資する資材の使用に努める。 ・ 公園施設の利用実態調査結果を基に、維持管理の効率化も含んだ既存公園等の機能集約・再編等について調査・検討を進める。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

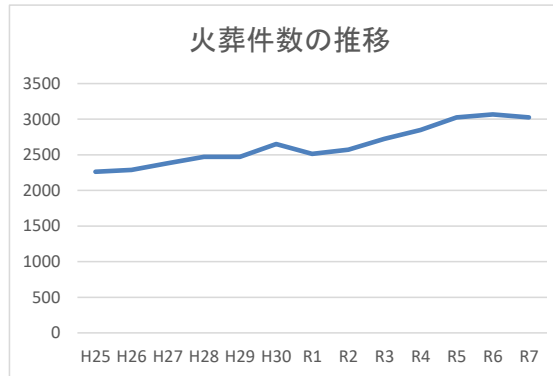
1 事業名等

事業名	火葬場施設整備事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	市民環境部環境保全課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	昇雲台斎場及び阿寒町斎場は供用開始より、年数の経過とともに施設全体の老朽化が進んでいるため、施設利用者に不便・不快感等を与えないよう、施設修繕計画を元に計画的な修繕工事を行なう。

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画

- 昇雲台斎場：火葬炉改修工事(炉内台車耐火物交換、主燃焼室耐火物交換(2炉分)、排気ファン部品交換、電動リフト台車部品交換(3台分))・待合室床改修工事(4部屋)、高圧コンデンサ更新工事、パイロスクリーンフィルター購入
- 阿寒町斎場：2号炉集塵メッシュスクリーン取替



(2) 事業の実績と成果

- 令和7年度実績
 - ・昇雲台斎場：火葬炉改修工事(炉内台車耐火物交換、主燃焼室耐火物交換(2炉分)、排気ファン部品交換、電動リフト台車部品交換(3台分))・待合室床改修工事(4部屋)、パイロスクリーンフィルター購入
 - ・阿寒町斎場：2号炉集塵メッシュスクリーン取替

(写真1) 待合室床改修工事(4部屋)



(写真2) 阿寒町斎場集塵メッシュスクリーン取替



【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		56,734	43,774	44,082
財源	一般財源 (千円)	1,392	2,352	△ 992
	国庫支出金 (千円)			
	地方債 (千円)	53,500	38,500	43,500
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)	1,842	2,922	1,574
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	7,388	7,620	7,711
①	職員数 (人)	1.0	1.0	1.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		291.4	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		256.3	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

火葬件数(実数)	人体の数(12歳以下含)		
	昇雲台斎場	阿寒町斎場	望洋苑斎場
・令和5年度	2,863件	136件	27件
・令和6年度	2,951件	103件	13件
・令和7年度	2,944件	66件	14件
炉内訳	昇雲台斎場	阿寒町斎場	望洋苑斎場
	・通常炉 7炉	・大型炉 1炉	・大型炉 1炉
	・特大炉 1炉		
	・抱わい炉 1炉		

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・施設の老朽化により、当初想定していなかった施設の機能不全が発生してきている。施設利用者に不都合が生じないように施設の管理を行っていく必要がある。			課題	・施設の老朽化により、予期せぬ不具合が発生する場合があるものの、斎場については、用途・性質上、閉館や長期使用停止ができない施設のため、利用者に不都合が生じないように計画的に管理運営を行っていく必要がある。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・昇雲台斎場については、平成14年の供用開始から22年が経過しており、火葬炉を含む施設全体の老朽化が進んでいる。修繕計画に基づいた修繕工事を実施していくとともに、当初想定していなかった設備の故障等も発生しているため、施設の利用者に迷惑をかけないように対応していく。			今後(令和9年度以降)の方向性	・火葬炉を含む施設全体の老朽化が進んでいる。施設の修繕計画に基づいた工事等を実施していくとともに、必要に応じて都度修繕計画の見直しを行い、斎場の安定した稼働を維持していく。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	ごみ減量化対策事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	市民環境部環境事業課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
	釧路市環境基本計画
	釧路市一般廃棄物処理基本計画
目的と概要	循環型社会の形成に向け、ごみの減量とリサイクルを推進するため、親子を対象とした体験型学習による環境教育・啓発活動を実施するとともに、生ごみ処理器の利用促進を通じて、市民のごみ減量意識の向上を図る。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		93	255	0
財源	一般財源 (千円)	50	175	0
	国道支出金 (千円)	43	80	
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	2,216	1,524	0
①	職員数 (人)	0.3	0.2	
参考	市民一人あたりの費用 (円)		1.7	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
1. 親子バス見学会事業 (1) 事業内容 ○親子での体験を通じた環境意識を醸成することを目的にごみ処理施設等の見学会を実施し、当課が抱える課題である労働世代へのアプローチの強化、リサイクルセンター施設見学数の少なさ、住民周知機会の創出に対して、解決に向けた事業を展開していく。 (2) 予算額 ○親子見学会中型バス貸切代金50.5千円×3回 (3) 事業周知 ○参加者の募集 ・市内小学校4～6年生へチラシを配付 ・市ホームページへの掲載 ・釧路市公式LINEへの掲載 2. 生ごみ処理器購入助成制度 (1) 事業内容 ○循環型社会の形成を目指し、ごみの減量意識の向上を目的に生ごみ処理器の購入に対する助成を行う。 (2) 助成内容(上限額) ・コンポスト 1,000円/台×10台分＝10,000円 ・電気生ごみ処理機 10,000円/台×7台分＝70,000円 ・削減型生ごみ処理器キエーロ 4,000円/台×5台分＝20,000円 (3) 事業周知 ・市ホームページへの掲載 ・釧路市公式LINEへの掲載 ・登録販売店へのPRチラシの掲示	令和7年度実績 1. 親子バス見学会事業 (1) 実施概要 ○日程 ・8月4日(水)、8月6日(水)、8月12日(火) ○見学先 ・釧路市資源リサイクルセンター ・王子マテリア釧路工場 ○参加人数 ・8月4日(月) 12名 ・8月6日(水) 13名 ・8月12日(火) 11名 以上の内容で開催 (後日のアンケートによる参加者の感想) ・リサイクルの工程を理解することができた。 ・思った以上にペットボトルの分別ができていなかった。 ・ごみを種類別に分ける大切さが分かった。 ・リサイクルできない紙があることを知った。 ・実際に働いている方からのお話を聞くと現場の声でとても勉強になりました。 ・資源が限られているためリサイクルやSDGsをより一層意識して守っていきたいと思います。子供の意識にも変化があり大変勉強になりました。 (ご意見) ・時間が長いので午前中で収まるようにしてほしい。 ・実施時期は熱中症の危険がない時期にならないか？ ◎アンケートの内容から環境意識の高まりが確認できた。 2. 生ごみ処理器購入助成制度 (1) 助成実績 ・コンポスト4台:3,800円 ・電気生ごみ処理機7台:69,500円 ・キエーロ4台:16,000円 (課題) ・制度に一定の需要はあるが、助成額が少ないとの意見があった。

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	廃止
課題	・令和6年度に関しては、海外観光客需要(インバウンド)により、バスの手配が難しく当初、3日間、中型バスでの開催を予定していたが、2日に減らし開催した。早期の手配が必要。 ・こどもの夏休み期間に親子での見学会であり、親の仕事の状況が参加に影響することからより早い段階での周知が必要。			課題	・バス事業については、令和7年度は、3回開催できたが1回あたりの参加者は少なかった。 ・見学会の実施時期、時間配分などに課題が見られた。 ・生ごみ処理器購入助成事業については、需要はあるものの助成額が少ないことが課題となっている。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・当見学会終了後にいただいた感想やご意見は、ごみの分別を市民に周知する際に大変参考になるものがあり、市民の環境意識向上に大変意義のある事業であるため今後も様々な意見に耳を傾けながら継続していきたい。			今後(令和9年度以降)の方向性	・バス事業は、事務事業見直しの対象となり廃止事業となったが、市民の環境意識向上に大変意義のある事業であるため、移動にバスを使用せず現地に集合する形などでも見学会を行えないか検討していきたい。 ・生ごみ処理器購入助成事業についても事務事業見直しの対象となり廃止事業となったが、生ごみの減量に対する周知は重要であり他の手段を検討していきたい。		